

全科協

vol.54
NO.5

News

特集

みんなどうしてる？ わが館の博物館実習



CONTENTS

- P2 ●特集
- P10 ●海外博物館事情
- P12 ●9月10月の特別展等
- P14 ●リニューアル情報
- P16 ●トピックス

JCSM

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会

〒110-8718
東京都台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899
<https://jcs.jp/>



みんなどうしてる？ わが館の博物館実習



学芸員養成課程の「博物館実習」は学芸員資格取得を目指す学生が実際にその業務を学ぶ重要な機会であり、博物館職員が数日間自館内で学生を直接指導する「館園実習」として毎年多くの館で実施されている。この実習は学芸員科目の最終段階に行われるものであるが、内容は受入館の裁量にゆだねられており、受入人数の規模や実施形態は館によって様々である。

一方で、博物館法の制定に基づき昭和27(1952)年から全国で始まった博物館実習を取り巻く状況も、平成21(2009)年以降の学芸員資格取得の単位数引き上げや、近年のコロナ禍といった状況下において各館が実施可能な実習方法の検討、令和5(2023)年の改正博物館法の施行など、年々変化し続けている。その都度、担当者はこれからの実習をどうしていくべきかと考えた経験があるだろう。このような博物館実習についてこれまでも業界誌にて特集が組まれたことや、大学や博物館の刊行物にて個別に実施した事例報告はあるものの、いざ担当者が実習計画に臨む際、他館での多様な実習方法のあり方について知ることができる機会は決して多くない。かつて自分自身が実習を受けた1～2館の経験のみを具体的な参考例にするのは些か心もとないもので、既に出来上がっている自館のやり方をベースに、このやり方のままでよいのかと自問自答しながら例年試行錯誤している担当者も多いのではないだろうか。そこで、今号では主として収蔵資料を取り扱う自然史系博物館と、体験やハンズオンに主眼を置く科学館の事例を中心に、これまで実践してきた方法や経験と、重視してきたポイントや考え方、実習に対する想いを綴っていただく。決して一つの正解があるということではないものの、他館の事例の中には同様の実習で直面する共通の悩みや、思いもよらなかった実施方法があるかもしれない。今号が次の実習に臨む担当者の立案・計画・実施の一助になることを期待したい。

熊本博物館 学芸員 南部 靖幸

大阪市立自然史博物館における博物館実習

大阪市立自然史博物館
和田 岳

大阪市立自然史博物館における博物館実習は、年3回程度まとまった人数を受け入れること、標本整理を中心とした実習内容など、大筋では過去30年にわたって、大きくは変わっていない。ただ、受け入れや実施方法は、いろいろと変化しながら現在に至っている。とくに2017年以降、標本実習中心の一般実習コースとは別に、大規模イベントの準備・運営を中心に据えた普及教育専攻コースが設定された。

筆者は、2014年度以降の博物館実習の受入を担当してきた。その経験をもとに、大阪市立自然史博物館での博物館実習の状況を紹介する。

コロナ禍の中では、受入から実施内容、そして実施形態も含めて、さまざまな配慮・変更を行った。その点についても随時触れる。

実習概要

大阪市立自然史博物館の博物館実習は、夏期・秋期・冬期の年3回実施している(図1)。近年は、夏期は8月、秋期は11月、冬期は1月に実施してきた。なお、図1の“その他”にあるように、これとは別に専門性の高い実習生を別途受け入れることがある。通常の実習日数は5日間。専門性の高い実習生の受入の場合は、6日以上受け入れることがある。

博物館実習の受講資格は、理科系・文化系を問わず、大学において生物学または地学関係の単位を取得していることとしている(図1)。受入人数は、年間30名程度としているが(図1)、実際は50名程度受け入れていることがある(図3)。これが現状での受入キャパシティのほぼ上限となる。2014年度から2024年度は、受講希望者全員を受け入れてきているが、今後、受講希望者さらに増加すると、なんらかの形での選抜が必要となる。

博物館実習の募集

例年、翌年度の募集要領を2月にホームページ上で公開する(図2)。申込み受付は、4月1日から4月30日。申し込めるのは大学のみで、学生からの申込みは受け付けていない。なお、専門性の高い実習生を別途受け入れる際は、学生とのやり取りをする。

なお、コロナ禍の際は、文化庁企画調整課博物館振興室から“今年度の博物館実習については、感染症の状況を踏まえ

博物館実習生の受入れに関する運用方針 大阪市立自然史博物館	
	制定 平成7年2月1日 改訂 平成13年4月1日 改訂 平成23年1月1日
【目的】	1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもち、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。
【受入れの規制】	2. 受入れの時期は夏期(7月～9月)・秋期(10月～11月)・冬期(12月～1月)の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。 3. 受入れ人数の総数は、年間30名程度とする。ただし、一大学について5名以内とする。(大学の受け入れ最大人数を、各期につきではなく、年間に変更しました)
	4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し(一般教養でも可)、その単位を取得している者に限る。
【実習の内容】	5. 実習の内容は、①一般実習コース、②普及教育専攻コースにわけて実施する。 ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。 ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。
【受入れの届書】	6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教員が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者を記した内諾何文書を、当該年度の4月1日から当該年度の募集要項で指定する4月の期日までの間に、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。 なお、学生個人からの依頼は受け付けない。
【受入れの届書】	7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に可否を回答する。
【その他】	8. 大学において自然史に関する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応募があれば、上記とは別に受入れることがある。

図1：大阪市立自然史博物館における博物館実習生の受入方針

2024年度博物館実習の開催予定

2024年度の博物館実習を下記の要領で開催します。
 実習生受入れを希望される大学は、**受入れの運用方針**に沿ってお申し込み下さい。文系学部学生の受入れを希望する場合は、内語問文書を提出する際に、生物学または地学関係の教科の単位を取得しているかどうかをお知らせください（証明書は必要ありません）。学生個人からの依頼は受け付けませんので、実習を希望される方は、所属大学の教務係または博物館長の担当教員の方にご相談ください。

一般実習コース

夏：2024年8月21日（水）～25日（日）の5日間
 冬：2025年1月11日（土）～13日（月）、1月15日（水）～16日（木）の5日間

普及教育専攻コース

秋：2024年11月13日（水）～17日（日）の5日間

「内語問文書」受付期間：2024年4月1日から4月30日まで

まず内語問文書を電子メールでお送りください（いきなり依頼文書を送られても受け付けません）。内語問文書には、実習を希望する学生の氏名・学年、希望するコース・時期、生物学または地学関係の教科の単位を取得しているかどうかを明記してください。人数が多かった場合、希望するコース・時期の希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください（例年、夏の希望が多く、秋や冬にまわって頂いています）。2024年度は、年間受け入れ人数を約40名とさせていただきます。「内語問文書」に公印は必要ありません。必要事項だけをお知らせください。いきなり依頼状を送ってこないでください。

5月中に受入可否の結果を回答します。回答後、正式な依頼状を提出して頂きます。なお、資料代等の実費として実習費用が必要です。

夏と冬の一般実習コースでは、初日のオリエンテーションの後、標本などを扱う作業が2～3日間、行事のサポートが1～2日あります。具体的な実習内容は博物館の側で決めます。ただし、学生が興味を持っている分野を、あらかじめお知らせ頂ければ、可能な範囲で配慮します。なお、標本実習の際は、昆虫やホネを扱ったり、汚れる作業や臭いの強い作業をすることがあります。その点をあらかじめ理解した上で、希望してください。

秋の普及教育専攻コースでは、大阪自然史フェスティバルというイベントを中心に実習を行います。初日のオリエンテーションの後、他のスタッフと共に準備、設営、運営、撤収に参加して頂きます。イベントの都合上、朝の早出や夜の作業などもあり、実習時間が長めで時間も不規則です。その点をあらかじめ理解した上で、希望してください。

内語問文書提出前から実習終了後まで、学生・教員ともに、訪問・手紙・電話を問わず、挨拶は一切お断しします。礼状も不要です。上記について不明な点がある場合にのみ、お問い合わせください。

受付担当 学芸課 和田岳
 大阪市立自然史博物館

図2：2024年度の博物館実習の募集要領

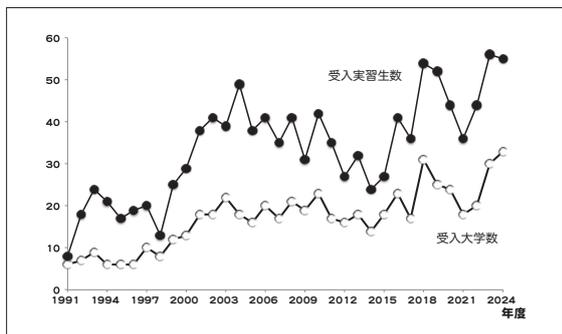


図3：大阪市立自然史博物館における博物館実習の受入実績

つつ、実施時期、期間、内容等について弾力的な対応を検討”するようにという要請（2020年4月13日付）があった。これを受けて、やむを得ない事情があれば5月以降も申込みを受け付ける旨、ホームページでアナウンスした。その結果、2020年度は5月に3名、6月に4名、2021年は5月に1名、2022年は5月に1名の申込みがあり、すべて受け入れた。2020年に聞いた範囲では、大学がずっとリモート授業であったため、学生と事務担当とのやり取りに手間取ったケースが多かったほか、一旦他の博物館での受入が決まっていたのが、その博物館実習が中止になり、行き場を失ったケースもあった。

申込み受付から実習当日まで

4月の申込みの際に送っていただくのは内諾伺いで、実習を希望する学生の名前と希望日程など必要事項のみを電子メールで送る（図2）。4月末に申込みを締め切った後、実習希望者の資格を確認し、各期の希望者数を集約して、必要に応じて人数調整を行う。例年夏期の希望者が多く、秋期や冬期への変更を検討して頂くことが多い。

人数が確定した後、5月前半に大学へ内諾を通知、大学からの依頼書が5月末頃にそろった段階で、内部決済を済ませ、6月に受入通知および実習にあたっての緒連絡を送付する。

ここまでの手続きが済めば、あとは実習当日に学生が集まるのを待つだけで、こちらから特に連絡はしない。しかし、コロナ禍にあった2020年度から2022年度は、対面で実習を実施するかどうか、日程変更等、大学へのおまめな連絡を行った。

実習の担当と進め方：一般実習コース

初日は、博物館実習取りまとめ担当者（つまり筆者）によるオリエンテーション。博物館の概要説明の座学の後、研究室・書庫・収蔵庫などバックヤードの案内、学芸員目線での常設展示の解説がおもな内容。残る4日間は、3日間は標本実習、1日は普及行事の見学・サポート。なお、コロナ禍の2020年度と2021年度は、密集を避けるために普及行事の見学・サポートを行わず、標本実習に切り替えたことがある。

標本実習は、4～5班に分かれて（各班3～5人程度）、それぞれを学芸員1人が1日担当する（班分けと担当学芸員は、博物館実習取りまとめ担当者が決める）。基本的にすべての学芸員が1日は担当することになる。実習内容は各学芸員に任せられる。標本作製・整理・データ入力が多いが、展示や収蔵庫の掃除を行うなど、標本に関係のない実習をする学芸員もいる。

班分け段階で経験する分野に偏りがないように心がけるが、担当学芸員によって、実習内容は大きく異なるため、当たり外れがあるのはやむを得ない。実習生の専門性や希望があらかじめ判っていれば、関連する分野の実習が受けられるよう配慮する。

実習の担当と進め方：普及教育専攻コース

毎年11月に開催される大阪自然史フェスティバルの開催に関わってもらってきた。初日のオリエンテーションは、一般実習コースと同じ（担当者も同じ）。2日目は準備（名札や掲示物の作製など）、3日目は会場設営（机、椅子、壁等を運んで並べる）、4日目と5日目はフェスティバルの運営・撤収（搬入・撤収対応、各持ち場でのアナウンス等）。オリエンテーション以外は、フェスティバルの担当者が、博物館実習を担当することになる。

なお、コロナ禍にあった2020年度と2021年度は、フェスティバルが開催されなかったため、一般実習コースに切り替えて実施した。

実習の担当と進め方：リモート実施

新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、府県境をまたいだ移動自粛が要請された2020年度冬、2021年度夏は、博物館実習をリモートで実施した。

リモート実施に切り替える際は、新型コロナウイルスの感染拡大が予想された段階で、大学にリモート実施でも参加を希望するか、学生の連絡先の開示は可能か等について問合せを行った（結果的には全員がリモート実施を希望した）。その返事を受けて、2週間ほど前にリモート実施を決定して大学に連絡、あわせて学生に実習内容と事前課題を連絡した。

リモート博物館実習は、班分けは行わず、全員まとめてZoomで実施した。初日のオリエンテーションの後、動物、昆虫、植物、地学の4分野の学芸員がそれぞれ実習を実施した。表1に2020年度冬のリモート実習の内容を示す（2021年度夏の内容もほぼ同じ）。実習内容は各学芸員に任せられたが、内容の

重なりがないように調整した。事前課題をこなす時間と実習ノートの記入時間を含めて、30時間以上になるように配慮した。なお、2020年度冬の実習ノートのコメントで、他の実習生とあまり交流できなかったのが残念という声が複数あったので、2021年度夏には初日に自己紹介の時間を設定した。

表1にあるように事前課題・文章等の発表と、その講評といった形で、実習生が嫌が応にも何かせざるを得ないプログラムになっている。各日の実習担当者は1人だが、講評においては、他の学芸員や他館のスタッフも加わることがあった。

通常の一般実習コースや普及教育専攻コースは、博物館を体験することに重きを置いている。それと比べると、リモート博物館実習の方が、より博物館学的要素が強く、こちらの方が勉強にはなっているかもしれない。

表1：リモート博物館実習の内容（2020年度冬）

●1月10日 10時～12時 オリエンテーション <事前課題あり>	パワポで概要説明。博物館のYouTube画像への改善点発表。
●1月11日 10時～16時 貝の展示物作製 <事前課題あり>	事前に作っていた貝標本の解説文を書いて、解説パネルを作製。外部の人を含めて講評。
●1月13日 10時～15時半 植物標本のデータベース入力 <事前課題なし>	DropBoxにアップされた資料をもとに各自で入力作業。最後に成果物の確認と講評。
●1月14日 10時～15時 自然史分野での特別展の企画 <事前課題あり>	事前に考えてきた特別展の企画を発表、講評。
●1月15日 10時～15時 冬越しの虫の資料作り <事前課題あり>	事前に撮影した昆虫画像とそれに付けた解説文を発表、講評。

成績評価

各学芸員は、自分が担当した日の、担当した実習生の実習ノートを、できる限りその日の内にチェックすることになっ

ている。単に押印するだけではなく、実習生の記入内容に間違いがあれば訂正し、質問が書かれていれば答え、コメントがあれば記入する。

5日間の実習が終わった後、実習ノートを集め、博物館実習取りまとめ担当者（つまり筆者）が、博物館実習全体についてコメントし、出席簿・成績簿などを記入して、大学へ返送する。成績評価と異いつつ、こまかい評価は行わず、よほどのことがない限り単位が余裕で取れるよう配慮している（今まで不合格としたことはない）。

ちなみに、大阪市立自然史博物館における博物館実習は、5日間出席して、指示に従ってそれなりに実習をこなすと同時に、担当した日の実習生ブログ（<https://omnh.jp/trainee/>）を書いたらクリアとしている（初日と最終日に繰り返しそう宣言）。すなわち5日間出席しても、ブログを書かないと実習を完了したと見なさない。

リモート実習においては、5日間の実習の後、学生に実習ノートを博物館に送ってもらい、内容をチェックして、書類を整えて、大学に返送した。実習生ブログも書いてもらった。

おわりに

過去25年間に限っても、受け入れてきた実習生は900名を超える。その中で学芸員になったのは、知る限りほんの少数。博物館実習が学芸員養成のためにあるとしたら、とても残念な結果ということになる。

博物館実習の記録は、館報の普及教育事業のパートに掲載される。博物館実習を普及教育の一環と位置づけていることになる。大阪市立自然史博物館の普及教育事業の参加者に、大学生はあまり多くないことを考えると、博物館実習は大学生に大阪市立自然史博物館を知ってもらう重要な機会にはなっていると考えられる。

来館者に対する意識を体感しながら学んでもらう

科学技術館
中村 隆

●博物館実習において重視していること

科学技術館の博物館実習は、2018年度に体制が整わず受け入れを一時中止した。再開を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により2022年度まで中止が継続され、5類になった2023年度からようやく再開した。

実習は、特別展やイベントなどが多数行われる夏休み期間の8月前半から中旬にかけて実施しているが、8月に加え12月後半の冬休み期間にも受け入れた年度も何度かあった。実習期間は、2023年度は7日間としたが、中止前の2017年度までは10日間としていた。

受け入れ人数は、年度にもよるが5～10人程度としている。希望者が多い場合は書類選考により決定する。また、受け入れは原則1大学から1名としており、同じ大学で希望者が複数名いる場合は、異なるキャンパスや学部であっても学内で調整の上で選出してもらうようお願いしている。

当館は科学館であるが、理系・文系、学部・学科を問わず受け入れている。実習は来館者の案内や誘導、体験型展示の操作説明など来館者への直接的な対応を主としていて、専攻分野に関わらず、博物館スタッフとして必要な来館者に対する意識を体感しながら学んでもらうことを重視している。

実習の実施の体制は、主担当は1名だが、実習する各業務の担当者が講師となる。主担当は、実習内容やスケジュールの計画、講師のコーディネート、募集・受け入れ・実習中・終了後の各段階の事務手続きなどを行い、実習中は実習生の指導者となる。

●受け入れまでの流れ

当館との事務手続きは、実習希望者の学生から直接ではなく、すべて大学の博物館実習担当者を通じて行っている。学生には博物館実習担当者とともに募集要項をよく理解してもらった上で申し込みを決定していただいている。

受入れまでの流れは、2023年度においては、募集を4月の前半に行い（当館ホームページにて告知）、当館指定の様式の申込書や身上書（志望理由などを記載）、受入願（推薦状）などに必要事項を記入して実習担当者から提出してもらった。

提出された書類を確認し、まず受入内定の回答をする。応募多数の場合は、この書類をもとに選考となる。5月中旬に回答書を博物館実習担当者宛に郵送する。内定した学生の大学には博物館実習実施要領および実習申請書類を同封する。

その実習申請書類に記入して、6月下旬に博物館実習担当者から当館宛に郵送にて提出してもらう。この書類をもって正式な申請となる。

当館は、書類の提出を受けた後、実習受入回答書を7月初旬に実習担当者宛に郵送する。この実習受入回答により、実習受入希望の学生を正式に実習生として受入れる。

●実習カリキュラムの内容と意図

実習カリキュラムでは、初日は、まず実習内容や担当者、スケジュールなどを説明するオリエンテーションを行い、続いて常設展示の運営方法や教育プログラムの開発・実施、巡回展示物の制作・貸出、広報による来館者の誘致など科学技術館の諸活動について概説する。常設展示は、当館は業界出展方式という特殊な運営形態をとっており、各展示室に出展者がついている。例えば、自動車展示室では日本自動車工業会、鉄鋼展示室では日本鉄鋼連盟といった業界団体が出展者となっている。常設展示に関する業務の実習においては、場合によっては出展者についても知っておいてもらう必要がある。

当館では、実習に入る前に、まず「科学を伝える」ことの意義を、当館で実験ショーや工作教室などの教育プログラムを開発および実演しているスタッフが説明する。さらに基本構想から運営開始に至る展示ができるまでの流れを、当館の展示制作や他館の展示コンサルティングを行っているスタッフが解説する。また以前は、受付スタッフによる挨拶や話し方をはじめ来館者に対するホスピタリティの講義や模擬練習なども行っていた。最初にこのような実習を行い、実践に入る前にできる限り博物館スタッフとして現場に立つ意識を高めてもらうようにしていた。

2日目の朝には、受付スタッフの朝礼の見学（発声練習に参加）や技術スタッフの展示の立ち上げ作業に同行してもらう。その日の運営に関する共有情報の確認、展示の状態確認など来館者を迎えるための準備作業の大切さを体感してもらっている。また、展示室以外の施設・設備を案内し、実習



工作教室の運営補助として参加者に工作の内容を説明

期間中に来館者に問われても対応できるように、休憩室やトイレ、授乳室、コインロッカーなどの場所も把握してもらう。

2日目以降は、実際に様々な運営業務に携わる。常設展示や特別展での体験型展示の操作説明、映像シアターやワークショップの参加者への整理券の配布や参加待ちの列の整理、実験教室や工作教室の材料・道具類の事前準備から本番での講師の補助、終了後の後片付けまでなど、現場で来館者に直接対応する業務を実習してもらう。また、技術スタッフの指導のもと、館内の展示物のメンテナンスの補助や使用していない展示用PCを解体して内部のパーツについて学習し、また組み立てて動作確認をするといった実習も行っている。さらに、実験ショーの実演スタッフの指導のもと、来館者の前で助手として実験の道具出しや一部を実演してもらうという実習も行うこともある。

●科学技術館ならではの实習課題

実習課題は、再開した2023年度は7日間と短い期間であったこともあり、実習で学んだことをまとめたレポートを終了後1週間以内に提出としたが、10日間実施していたころは、6日目に課題について説明し、3日間で実習を受けながら課題に取り組んで、10日目の最終日に発表してもらうようにしていた。年度によって個人課題だったときとグループワークだったときとあるが、個人課題では、運営に関する改善点の提案や新しい展示の構想など主担当と調整しながらテーマを決めて、来館者やスタッフの様子を見ながら考えてもらい発表してもらった。一方、グループワークでは、いくつかのグループに分かれて来館者の前で実験ショーを実演してもらうという課題も行っていた。例えば「大気圧」や「静電気」など実験ショーのテーマを提示して、そのテーマに関する実験をいくつか実演して紹介し、さらに実際のショーの映像を見もらう。それを参考に自分たちで実験を2つまたは3つ選んで組み合わせたシナリオを作ってもらう。そして、そのシナリオをベースに、実演スタッフの指導を受けて原理の学習や見せ方・話し方などの練習をし、ショーとして仕上げ最終日に来館者の前で実演してもらう。なるべく当館ならではの課題に取り組んでもらうようにしている。

●将来の学芸員の育成に向けて

このような課題の成果や実習期間中の取り組み方の様子などを総合して次週の評価をしている。評価は主担当が行う。基本的に各実習の様子を主担当が見ているが、各講師からの



展示メンテナンスの実習で体験型展示の付属品を製作

ヒアリングで実習の状況を確認している。また、実習生が毎日提出する実習日誌を読み、実習生の意識の変化や注視した点、理解した点などを確認している。これは逆に当館の実習カリキュラムの内容の評価ともなる。最終的な評価は、各大学から提示された評価表などに沿って行っているが、その判断基準は以上のことがベースとなる。

ただ、新型コロナ禍の対応をきっかけに、スタッフも来館者対応や清掃などで以前とは異なる業務が増えたり、制約が生じていたりしているので、2023年度は以前のように博物館実習に時間をかけられなくなってしまったことや実習してもらった作業も限られてしまったことは、実習生に対して申し訳ないと感じているところである。2024年度も7日間で実習生を受け入れるが、できる限り制約がない内容にしたいと考えている。

科学技術館の博物館実習は、先述の通り、博物館スタッフとして必要な来館者に対する意識を体感して学んでもらうこ

とを重視している。つまり、それは来館者の意識を知ってもらうことであり、それがより効果的な展示や教育の実施につながることであり、ひいてはそのもととなる資料収集や調査研究方針にもつながることを知ってもらい、ゆえに学芸員にとって現場に出ることがいかに重要であるかを実感してもらえたらと考えている。

一方、当館も実習生を受け入れていくことで、学生の意識を知り、さらにその変化を知ることでもできる。当館の独自の調査でも新型コロナ禍で学芸員養成課程を過ごしてきた学生の意識が、約10年前の養成課程の学生の意識と少なからず異なっていることが示されている。博物館として効果的な博物館実習を提供するためにも学生の意識を知っておくことは重要と考えている。短い期間の実習では難しいところではあるが、当館も博物館として、少しでも将来の学芸員の育成に役立てればと考えている。

御船町恐竜博物館の館園実習 ～小規模館の実態を体感する実習～

御船町恐竜博物館
主任学芸員 池上 直樹

はじめに

御船町恐竜博物館は、1998年に設立された町立の自然史系専門博物館である。町内に広く分布する白亜紀層の化石をはじめとする地学資料約19,000点を所蔵している。延べ床面積約2,000㎡の小規模施設だが、年間12～15万人の観覧者がある。開館当初から教育活動に力を入れており、博物館教育担当の学芸員を擁し、様々な年齢層を対象とした年間50回程度の講座を開催している。

博物館実習、特に館園実習については、登録博物館の指定を受けた頃から受入の要望があり、可能な限り受入を行ってきたが、小規模館であるが故の課題も多い。したがって、本稿では、学芸員の配置が限られる小規模専門館の博物館実習の実態について情報を共有し、実習のあり方に関する議論のきっかけとしたい。

御船町恐竜博物館の運営組織

当館は、町の教育委員会が所管しており、直営で運営を行っている。県の補助事業として実施した恐竜化石等の重要化石分布調査の成果を受けて、それらの資料の整理と展示を行うことを目的として設置された経緯もあり、その沿革と組織は他の公立博物館とは少し異なりユニークである。

博物館設立当初の組織は、御船町教育長が館長を兼務し、学芸員1名の配置であった。発掘調査の担当者として派遣されていた県職員を割愛採用することで学芸員を確保した。しばらくして受付や事務補助をおこなう非常勤職員を2～3名配置し、土・日の開館に対応した。予算執行や歳入調停等に伴う基本的な事務は、教育委員会の社会教育課の職員が担った。町の武道場を改修した450㎡の建物であったが、この施設で年間約3万人の観覧者を受け入れた。

2014年に新館に移転し、現在、専任の館長を含め18人の職員が配置されている。事業管理係と学芸係があり、事業管理

係には2名の常勤職員（町職員）が配置され、学芸係には2名の学芸員（古生物学・地質学担当及び博物館教育学担当）が配置されている。

事業管理係には受付や事務補助を担当する管理員（パートタイム会計年度任用職員）が6名配置され、学芸係には会計年度任用職員として、資料技師（化石プリパラーター＝化石標本作製技師）3名、調査員1名、学習指導員1名、グラフィックデザイナー1名、一般事務補助員1名が配置され、専門的・技術的業務を担っている。

北米の博物館組織に倣い、特定の資料分野の学芸員（キュレーター）だけではなく、教育、展示・デザイン、標本作製、資料管理等の専門の異なる職員が、チームで仕事を行うという考え方に基づいて配置されている。実際、18人の職員のうち、常勤職員は4人であり、パートタイム会計年度任用職員が博物館の活動を支えている。

館園実習の概要

当館の館園実習は、受入要項に従って受付を行っている。時期は、大学の夏期休暇期間を設定しているが、来館者数が減少する8月下旬から9月とし、最大10名で募集を行っている。希望者は、年度当初に大学をとおして依頼書を提出する。

当初、大学で自然科学を専攻している学生を対象としていたが、文学部や芸術学部の学生からの参加希望もあり、最近では、教育学部からの実習生も増えてきている。現在、専攻による制限は設けず、実習の内容が専門分野と異なることを了承の上で参加してもらっている。今のところ、毎年5～6名の申し込みがあり、これまで応募者多数による選考を実施したことはない。

館園実習受入の実務

当館ではホームページで要項を示して館園実習の受入を告知している。具体的な日程は示さず募集している。通常、実

習を希望する学生や担当の教員から事前に連絡があり、他の授業等の予定が入っているとの申し出があったときには日程調整の際に考慮している。

実習への参加を希望する学生は、「写真添付の個人調書（様式自由）」と「実習希望理由書（様式あり）」を大学の依頼文書とともに4月末までに提出する。実習の希望者が確定したところで、5月中旬に文書で受入と正式な日程を回答する。原則7日間を基本としているが、大学によっては、それ以上の時数を課する場合もあり、適宜対応している。実習生は、実習開始前までに博物館の担当職員と連絡を取り、来館時の注意事項等を確認して、実習初日に来館する。

実習中は、大学によって定められた出勤簿やノートの確認を行い、終了後に評価をおこなう。評価は、実習担当の学芸員が案を作成し、他の学芸員や館長等に回議して決定する。

館園実習の内容

当館の実習の内容は、博物館の人員配置によって変化してきた。当初、館園実習の目的は、学芸員の実務を実際に経験することと漠然と捉えており、「学芸員として過ごしてもらう」ことを基本としてきた。1～2週間の実習で、「学芸員としてテーマを決めて、資料を収集し、研究し、展示して教育活動を実践する。」ことが実習の内容であり、その中で、標本作製の技術や機材の使い方に触れたり、展示や講座の内容を学芸員と議論したりした。指導できる職員も1名であり、すべての時間を指導に割くことはできず、受入人数も限られていた。実習生は、「学芸員」として「考える時間」が長くなり、自主的に動けない実習生にとっては、厳しい時間だったかもしれない。しかし、積極的に活動し、展示を作って来館者に説明し、好意的な反応に達成感を感じた実習生も多かった。

2009年に文部科学省から「博物館実習ガイドライン」が示され、実習の内容を見直した。非常勤職ではあるものの、学芸員以外の専門職員の配置もあり、課題研究だけでなく、標本作製等の実務も経験できるように配慮した。



図1 展示解説パネルの作製



図2 化石の複製製作の実習。
技師から作業の工夫など、技術的要点を聞くことができる。

2014年に新館に移り、技師の配置や設備の充実が図られ、研修と経験を積んだ技師と共に作業を行うことができるようになってきた。例えば、グラフィックデザイナーから印刷物等のデザインの基本を学び、展示解説用のパネルの作製など、小規模博物館では役立つ実務を経験することができる(図1)。また、プリバレーター（標本作製技師）の仕事を経験することで、作業の基本やラボの管理のあり方について実感したりすることができ、技師が日常的に行っている技術的工夫やノウハウを実地に学ぶことができる(図2)。博物館において、学芸員ではない専門の職員から学ぶ機会は、博物館組織のあり方について考える機会となり、実習生にとって有意義であることが、感想などから見て取れる。近年の実習は、概ね表1のとおりである。

最近の課題研究では、展示作製に取り組む実習生は少なく、成果発表では、各自5～10分程度のプレゼンを行い、質問や意見交換を行っている(図3)。異なる専門分野(例えば、自然科学、人文科学、教育、美術)を専攻している学生の発表は、相互により刺激となっているようで、実習生から「館内で異なる専門分野の職員の連携が大切だと気づいた」との感想もあった。

おわりに

当館の館園実習は館の組織とともに変化してきた。現在、ガイドラインに従った実務実習が中心となっており、様々な経験ができるように配慮しているものの、実習生個々の希望に応えられているか疑問を感じることもある。専攻も進路希望も異なる実習生に同一の内容を提供することは、少し無理があるのかもしれない。

本稿執筆中に博物館実習ガイドライン(2024年6月)が公表された。この中では、改正博物館法で新たに追加された電磁的記録の作成・公開と地域や関係機関等との連携や地域活力の向上への寄与に関する実習が追加されている。今後は、新たな内容を加味して実習を計画していく予定であるが、作

表1 館園実習の内容

1日目：ガイダンス・課題研究の設定
2日目：岩石・化石試料の処理
3日目：化石複製標本の作製
4日目：コレクションの管理
5日目：グラフィックデザイン
6日目：教育プログラムの開発
7日目：(午前) 課題研究のまとめ (午後) 課題研究の発表

※但し、2～6日目の実務実習はローテーションを組んで実施するため、順序は入れ替わる。



図3 成果発表の様子

業経験の機会を保障するためには、少人数での実施が不可欠であり、指導できる職員も必要となる。ガイドラインでは、常勤の職員（学芸員、技師、その他の職員）が指導に当たることが記されているが、常勤職員を十分に配置できない小規模博物館では、非常勤職員の関与も実習の充実に欠かせないものとなる。

いずれにしても、博物館が学芸員養成に携わることは、博物館の理解者を増やすことに他ならず、また、将来、実習生

がこの業界と一緒に仕事ができる学芸員に成長することは、館園実習を行う博物館にとって大きな財産となる。

小規模専門館である当館の館園実習で学べることは多くないが、小規模館の「学芸員」の日常を経験し、異なる専門性をもつ人たちとチームで仕事をする中で、より良いものを作り出すことができることを実感できるメリットはあるかもしれない。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館の博物館実習

ディスカバリーパーク焼津天文科学館
事業課 鈴木 伶音

ディスカバリーパーク焼津天文科学館は、焼津市の海岸沿いに建つ科学館です。同市出身の世界的望遠鏡製作者である故・法月惣次郎氏が製作した、県内最大の口径80cm大型望遠鏡のある天文台や、今年3月にリニューアルしたプラネタリウム、季節ごとの特別展を行う展示・体験室を備えた施設です。平日は学校団体、土日祝日は家族連れが多く来館しています。博物館実習では、現場で職員が心がけていることを体験できるよう、天文台を軸にプラネタリウムや展示・体験室でも活動し、科学館としての天文・科学の教育普及活動をメインとした実習内容にしています。

1. 実習概要

実習は毎年9月上旬の火～土曜日の5日間で行っています。この時期は学校団体、特に小学4年生と6年生の団体利用が多い時期です。以前は8月に行っていた時期もありましたが、近隣大学の大学院入試の時期だったこともあり、現在の実施時期に落ち着きました。

募集は4～6月上旬にかけて、館のウェブサイト上でお知らせするほか、近隣大学に直接案内も送っています。受付の際は、一度電話で直接問い合わせてもらった後、大学を通して依頼文や必要書類を提出していただいています。当館が博物館類似施設である点や、実習期間が5日間である点から、所属大学が実習として認めるか確認してもらう必要があるからです。希望者多数の場合は理工系学部の最終年次の学生を優先することにしてはいますが、応募段階では専攻に制限は設けていません。また、募集人数は若干名としていますが、コロナ禍で実習を行う館が少なくなった際には、例外的に複数回の実習期間を設けて当初予定以上の人数を受け入れました。

2. 実習内容

学芸員資格を持つ職員が全体を統括しながら、その日ごとの内容によって現場での担当者を割り当てています。団体の予約状況や実習生の人数によって活動のスケジュールは変わりますが、年度による内容の大きな違いはありません。

▶ 1日目

アイスブレイクのあと、当館の事業と実習についてのガイダンスを行います。前年度の年報を見ながら概要を説明した後、実習中の安全教育と実習課題について伝えます。午後は学校団体に同行して、プラネタリウムと天文台を見学してもらいます。その後改めて天文台の設備を説明し、一

般向けの天文台見学会も見学してもらった後、後述する実習課題「天文台見学会の実施」に向けた研修を行います。また、翌日以降の団体対応のため展示担当者が展示・体験室の特別展についてレクチャーします。

▶ 2日目

午前中は学校団体の利用に合わせて行動し、展示・体験室では児童が展示物を体験する際のヒントやポイントの声掛けを行ってもらいます。プラネタリウムでは場内の誘導補助をしてもらいつつ、投影を見学してもらいます。午後は広報担当者から、館の広報活動について内容や意義を研修します。その後、天文台見学会の練習時間をとり、夕方は職員交流会を行います。

▶ 3日目

引き続き学校団体の利用補助をしてもらいつつ、天文台見学会の実施に向けた練習を重ねていきます。翌日の本番を控え、職員が来館者役になりながら練習やチェックを行います。

▶ 4日目

天文台見学会の実施本番です。複数クラスが利用する場合は、クラスごとに実習生を割り振ったり、複数回担当してもらったりしています。天文担当の職員も見学し、終了後にフィードバックします。午後は最終日の実習報告会の準備を進めつつ、一般向けのプラネタリウムを見学したり、プラネタリウム事業の研修を行ったりします。

▶ 5日目

午後の実習報告会の準備の傍ら、一般向けのプラネタリウム投影や館内の様子を見学を自由に行ってもらいます。実習期間内で唯一週末の日程のため、平日と館の様子の違いが比較しやすいかと思います。夕方に実習報告会を行い、全日程が終了となります。

以下、活動内容について具体的に紹介します。

○天文台見学会の実施

先述のとおり、実習期間は学校団体の利用が多い時期です。そこで、主に団体向けの天文台見学会の実施を大きな実習課題に据えています。初日に職員が実演しているところを見学してもらった後、最低限話してもらいたい内容（望遠鏡が県内一の大きさ、製作したのが地元の方、など）を説明します。2～3日目はスケジュールに従い練習を重ねます。実習生が複数いる年度は互に見学し合ったり、職員を来館者に見立



天文台見学会



職員交流会



実習報告会

てたりしながら、内容や言葉遣い、声のトーンなどをチェックしていきま。並行して各職員が担当する団体向け／一般向けの見学会を見学し、対象によって表現や話す内容に違いがあることに気づいてもらいます。本番の実施は、団体の予約状況にもよりますがおおむね3日目の午後から4日目の午前の間に設定しています。望遠鏡のミニ模型を活用して見せてみたり、発問のしかたを工夫してみたりと、どうすれば相手に興味をもってもらい、分かりやすく伝えられるかを実習生ごとに短期間で考えた様子が見られ、毎年興味深い実習課題です。

○実習報告会でのプレゼンテーション

もうひとつの実習課題が、最終日に行う実習報告会です。活動の振り返りと、その中で気づいたことをまとめ、発表してもらいます。特にプレゼンテーションに含めてもらうよう伝えているのが「ディスカバリーパーク焼津天文科学館の良い点・改善点」についてです。どんな些細なことでも構わないので、5日間の実習期間で見つけるよう初日のガイダンスで伝えています。日常的に大学とのつながりがあまり強くない当館にとって、博物館実習は貴重な機会です。20代の若者として、また大学で博物館について学んだ学生としての視点から、事業や館内の掲示、来館者の動向などを見てどのように感じたかを聞けるのは、当館が博物館実習を受け入れる上で明確に館のプラスになっている点です。とはいえ、実習生という評価される立場での言いづらさに配慮し、「皆さんの忌憚なき意見が館の運営の改善につながっていくので、遠慮なく指摘してください」と一言添えるようにしています。

○プラネタリウムの投影見学、事業研修

直接の実習課題ではありませんが、期間中にはプラネタリウムの投影見学の機会も複数回設けています。学習投影と呼ばれる学校のカリキュラムに即した投影と、一般向けに行う投影とでは、内容も話し方も全く異なります。この点は天文台見学会を実施する際にも役立つのではないかと考えています。また、プラネタリウムでは事業についての研修も行っています。季節ごとに変えるテーマ投影や特別イベントで使う映像がどのように作られているのかプログラミング画面を見せると、プラネタリウムの仕組みやスタッフの業務にも興味を持ってもらえるようです。

○職員交流会

実習担当のほか、館長と天文担当、展示担当の代表者に参加してもらい、フロアでの活動中には聞きづらい話題でもざっくばらんに質問できるよう実施しています。仕事のやりがいや大変なことから、企画のアイデア出しについてや、館長の業務に至るまで、様々な質問が飛び出し、毎年大いに盛

り上がる時間です。様々な部署の職員に参加してもらうことで、バックグラウンドの異なる職員が館の運営にかかわっていることが実感できる場にできれば、という意識もあります。

3. 実習担当者として

目下の悩みは、年度によって実習生の応募人数の差が大きい点です。複数人の応募がある年もあれば、一人しか応募がない年もあります。一人の場合は実習担当者が集中して対応できる一方、同様の立場や目線で課題に取り組む仲間がいない分、一人で工夫を凝らしたり、プレゼンテーションのための気づきを得なければならなかったりという点が大変そうに映ります。

実習を通して、私たちが普段の業務でも感じている、相手に伝えること、興味を持ってもらうことの難しさと、伝わった時の喜びを追体験してもらえたらと考えています。その点でも、天文台見学会での緊張感と成功体験はどの実習生にとっても大きな経験となっているようです。特に学校団体向けだと、子どもたちの素直な反応ゆえに「ちゃんと楽しんでもらえたんだ」という実感が得られ、成功体験として強く印象づくのかもしれない。

毎年、実習の最後には「これからも博物館や科学館のサポーターでいてもらえたら嬉しいです」と伝えるようにしています。学芸員資格を持つ人の中で実際に博物館施設に勤める割合が非常に少ない現状において、それでもなお資格取得のために学芸員課程を履修し、実習へ参加してくれた学生たちです。この実習への参加を通して、今までよりもさらに博物館施設を好きになり、今後も興味を向け続け何らかの形で博物館に関わってくれる存在でいてもらえたらと強く願っています。

ここを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営

 Tanseisha

空間創造のプロフェッショナル 株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F
TEL|03-6455-8100(代表) URL|www.tanseisha.co.jp

札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・上海



■ 新設館

印グジャラート州に、地震博物館が開館（2022年8月）

2022年8月28日に、インド西部の州グジャラートのブージ（都市圏人口：27万人）に、スムリティヴァン地震博物館（Smritivan：記憶の森）が開館した。同館は、2001年1月26日の現地時間午前8時46分、ブージの北東約20 kmに起きたインド西部地震（マグネチュード7.7）の犠牲者（約13,000人）の追悼と震災の経験と教訓を後世に伝え、あわせて防災に関する実践的知識と技術を普及するために設けられた。

11,500㎡の延べ床面積をもつ同館は、「再生」「再発見」「復元」「再建」「再考」「追体験」「再生」という、7つのテーマ・ブロックに分かれ、それぞれ常設展示が設けられている。各ブロックの展示は、実物をはじめ、写真、記録映像、バーチャルリアリティ映像などで構成されている。設置母体：グジャラート州災害管理局（GSDMA）。Smritivan Earthquake Museum. Bhuj, Gujarat.

<https://www.smritivanearthquakemuseum.com>

<https://www.architecturaldigest.in/story/smriti-van-earthquake-memorial-and-museum-2023-works-of-wonder/>

<https://www.instagram.com/p/CnHpgsNyl6/>

<https://www.instagram.com/p/CnMxI6BBV8k/>

■ 企画展・特別展

英ロンドン自然史博物館で、鳥類展を開催

2024年5月24日に、ロンドン（都市圏人口：965万人）にあるロンドン自然史博物館で、鳥類の進化と多様性を紹介した企画展「鳥類：華麗で奇妙な生き物」が開幕した。

展示では、9つのハイライトが用意されている：「ハチドリ的心脏音を聴こう」「エミューとヒブシロフォードの違いを見つけよう」「始祖鳥の化石を見て、鳥の祖先が恐竜だったことを知ろう」「鳥のくちばしの形の違いを目で確かめよう」「ムクドリの大群の中に身をおいてみよう」「帽子づくりに羽が使われた鳥の捕獲の歴史を知ろう」「タンザニアで人間に蜂蜜のありかを教える鳥について知ろう」「7000万年に生きていたアステリオルニス・マストリヒテンシス（ニックネーム：Wonderchicken）について知ろう」「渡り鳥に関する私たちの理解に革命をもたらしたコウノトリ」。

担当キュレーターは、海鳥の生態学と保存生物学を専門としている、同館のAlex Bond博士。

★「鳥類：華麗で奇妙な生き物」展の会期は、2025年1月5日まで。

Birds: Brilliant and Bizarre.

Natural History Museum. London.

<https://www.nhm.ac.uk/visit/exhibitions/birds-brilliant-bizarre.html>

<https://www.nhm.ac.uk/visit/exhibitions/birds-brilliant-bizarre/nine-highlights.html>

英ケンブリッジ大学動物学博物館で、脊椎動物の進化展を開催

2024年2月1日に、イギリスのケンブリッジ（都市圏人口：28万人）にあるケンブリッジ大学動物学博物館で、脊椎動物の進化をテーマにした企画展「背骨の成長：脊椎動物の台頭」が開幕した。

同館の化石標本をふんだんに使った同展では、脊椎動物の摂食、歩行、走行、水泳、飛行などの行動がどのように進化してきたかを紹介している。また、顎と歯の起源、カメが甲羅を手に入れた経緯、ヒトの背骨の歴史、ヘビが脚を失った経緯など、進化における大きな転換点の証拠も明らかにしている。同展の目玉展示は、全長3.5メートルのニシキヘビの骨格展示だ。316個の椎骨と518本の肋骨から復元した、ニシキヘビを使って、ヘビがどのようにして、現在見られる体型に進化したかを明らかにしている。

担当キュレーターは、脊椎動物の進化と生態学を専門としている、同館のJason Head博士。

★「背骨の成長：脊椎動物の台頭」展の会期は、2024年9月15日まで。

Growing a backbone: Rise of the vertebrates.

Museum of Zoology University of Cambridge. Cambridge.

<https://www.museums.cam.ac.uk/events/exhibition-growing-backbonerise-vertebrates>

<https://www.museum.zoo.cam.ac.uk/news/2024-exhibition-growing-backbone-rise-vertebrates>

米クリーブランド自然史博物館で、「最後の氷河期の生命」展を開催

2023年5月24日に、オハイオ州クリーブランド（都市圏人口：370万人）にあるクリーブランド自然史博物館で、企画展「最後の氷河期の生命」が開幕した。

同展では、最後の氷河期（更新世）に、いまのオハイオ州で生息していた野生動物と、現在のオハイオ州の地形を形作った氷河の形成を紹介している。

担当キュレーター：古脊椎動物学を専門としている同館のCaitlin Colleary博士。

★「最後の氷河期の生命」展の会期は、2024年6月30日まで。

Life during the Last Ice Age - Explore the world of

Pleistocene Ohio.

Cleveland Museum of Natural History. Cleveland, Ohio.
<https://www.cmnh.org/visit/exhibits/life-during-the-last-ice-age>

<https://www.northeastohioparent.com/content-for-kids/explore-ohios-last-ice-age-with-cleveland-museum-of-natural-history/>

米ニューヨーク植物園で、企画展「菌類、寄生虫、肉食動物の共生関係」展（絵画展）を開催

2024年5月18日に、ニューヨーク（都市圏人口：2,000万人）にあるニューヨーク植物園で、「不思議な仲間たち：菌類、寄生虫、肉食動物の共生関係」と題した企画展が開幕した。同展では、著名なアーティストが描いた絵画を使って、菌類、地衣類、菌栄養性植物、寄生植物、食虫植物と他の植物や動物との、重要でありながら、しばしば、一般に紹介されることが少ない共生関係を明らかにしている。

ニューヨーク植物園では、草間彌生展（2021年）、フーダ・カーロ展（2015年開催）など、植物を主題にした美術展を長く開催してきた歴史があり、植物園でありながら、世界的な美術館が集中しているニューヨークの美術館界の重要な一角を占めている。

★「不思議な仲間たち：菌類、寄生虫、肉食動物の共生関係」展の会期：2024年10月27日まで。

Curious Allies: Exploring Relationships in Fungi, Parasites, & Carnivores.

New York Botanical Gardens. Bronx, New York.

<https://www.nybg.org/event/wonderland-curious-nature/wonderland-curious-nature-programs/asba-curious-allies/>

<https://www.newyorkmyc.org/event/non-nyms-event-curious-allies-mutualism-in-fungi-parasites-and-carnivores/>

米オレゴン州の科学博物館で、気候変動展（山火事を描いた絵画展）を開催

2024年6月20日に、オレゴン州はダラス（都市圏人口：8万人）にあるコロンビア川渓谷博物館で、「山火事（アン・ラタン絵画展）」が開幕した。同展では、広大な森林が多く、山火事も多いオレゴン州で起きた、イーグルクリーク山火事（2017年）とサンティン山火事（2020年）の惨状を、アン・ラタンによる描いた油彩画で紹介した。

アメリカの太平洋北西海岸地域の風景を多く描く、ラタンは、2020年のサンティアム山火事の体験で人生が変わった。その年の9月にオレゴン州シスターズを訪れたラタンは、知らず知らずのうちに山火事に向かっていた。その山火事は、最終的にデトロイトの町（人口：203人）を破壊した。当局は彼女のすぐ後ろの道路を封鎖し、彼女は強い恐怖を経験した。ラタンは、「デトロイトの小さな町に着いた頃には、空は明るいオレンジ色で染まり、

また道路のすぐ横にある湖は、あたりが暗すぎて、見えませんでした。オレンジ色が見えて、夜のように暗いのはとても不気味でした」と語っている。この体験から受けた感情的な衝撃が、彼女の芸術的方向性を一変させた。さらにラタンは言う「絵を描くことで、火事の悪い夢や、暑くて風が強いときに感じる恐怖を乗り越えることができました。私の今後の取り組みは、私たち全員が直面している、明白で差し迫った危険について、人々に伝えることです。気候変動はここにあります。気候変動を緩和し、山火事に備えるために行動を起こす必要があります」と語っている。

★「山火事（アン・ラタン絵画展）」展の会期：2024年8月18日まで。

WILDFIRE: The Art of Ann Ruttan.

Columbia Gorge Discovery Center & Museum. Dallas, Oregon.

<https://gorgediscovery.org/events/wildfire-art-exhibition/>

<https://www.columbian.com/news/2023/jun/01/wildfires-inspire-pacific-northwest-artists-into-action/>

米ポートランド世界森林センターで、フィンランドの森林文化展（写真展）を開催

2024年6月1日に、オレゴン州はポートランド（都市圏人口：225万人）にある世界森林センターの博物館で、フィンランドにおける森林文化を写真で紹介した企画展「森のひとびと」が開幕した。

同展は、フィンランドの写真家リトヴァ・コヴァライネンとサンニ・セッポの写真作品によって、フィンランドで語りつがれてきた、森の神話と、ほとんど忘れ去られた慣習や信仰の宝庫を組み合わせ、フィンランドの民俗文化における人々と樹木との神聖なつながりを描き出している。文献調査に10年を費やした、コヴァライネンとセッポは、「私たちが古い文献に目を通し始めたとき、私たちは非常に豊かな慣習や信仰の領域に遭遇しました。それは私たちの世代の意識からほぼ完全に消えてしまった宝物です」と語っている。さらに、「地名や言語は忘れられた意味を帯びています。かつては神のような存在だった木々は今も私たちの中に存在しています。かつて熊の頭蓋骨を天に持ち上げた古い松の木も数本残っています。神聖な森、つまり古代の教会の遺跡では、自然の神秘的な力が響き渡るのを今でも感じることができます」と語っている。

★「森のひとびと」展の会期：2024年9月29日まで。

Tree People.

World Discovery Center. Portland, Oregon.

<https://worldforestry.org/treepeople/>

<https://sanniseppo.com/>

<https://www.ritvakovalainen.com/>

List of special exhibition!

9月10月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	宇宙月間	9月1日～9月29日
	遊びんピック	10月12日～10月14日
岩手県立博物館	企画展「捕食者の献立」	9月28日～12月1日
牛の博物館	第32回企画展「牛の品種図譜と改良史 -明治期における外国品種導入の試み-」	7月20日～10月20日
秋田県立博物館	企画展「稲穂の詩 -秋田と米づくり-」	9月28日～12月1日
高柳電設工業スペースパーク (郡山市ふれあい科学館)	ホワイエ企画展「『水の惑星-星の旅シリーズ-』写真展」	8月31日～10月27日
	鉄道の日「鉄道フェスティバル」	10月12日～10月14日
ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	羊歯(シダ) -花はないけど、華はある-	7月6日～10月6日
日立シビックセンター科学館 サクリエ	ミニ企画展「Skill is Magic! 技能五輪」	10月5日～12月1日
栃木県立博物館	テーマ展「世界の! 栃木の!!コガネムシ〜カブトムシだっとなかまだよ〜」	3月16日～9月23日
	企画展「とちぎのキノコ」	7月20日～11月4日
	とちぎテレビ開局25周年記念・栃木県立博物館第139回企画展「とちぎのキノコ」	7月20日～11月4日
	テーマ展「武士の装い-館蔵刀剣武器展-」	7月27日～9月23日
	テーマ展「栃木の畑作〜麻・麦・かんぴょう〜」	7月27日～11月10日
	テーマ展「植物画の楽しみ〜絵で感じるボタニカル今昔〜」	10月5日～11月24日
群馬県立自然史博物館	第70回企画展「北極と南極〜いきものたちがめぐる海と陸〜Season I」	7月20日～9月8日
	第70回企画展「北極と南極〜いきものたちがめぐる海と陸〜Season II」	9月14日～12月8日
群馬県立ぐんま昆虫の森	企画展「たのしい昆虫飼育 Part2 雑木林の虫編」	7月13日～10月28日
埼玉県立川の博物館	秋期企画展 荒川放水路通水100周年記念展示 荒川放水路と自然の姿(仮)	9月21日～12月1日
千葉県立中央博物館	万祝博覧会-海をまとう-	7月27日～9月29日
	二口善雄植物画展	10月12日～11月24日
国立科学博物館	特別展「昆虫 MANIAC」	7月13日～10月14日
	企画展「高山植物〜高嶺の花たちの多様性と生命のつながり〜」	7月30日～11月4日
たばこと塩の博物館	嗅ぎたばこ入れ 人々を魅了した小さな容器	9月21日～12月22日
郵政博物館	企画展「生誕140年記念 -乙女たちの夢- 竹久夢二展」	7月27日～9月23日
	「秋季企画展」	10月5日～12月15日
日本科学未来館	特別展「刀剣乱舞で学ぶ 日本刀と未来展 -刀剣男士のひみつ-」	7月10日～10月14日
目黒寄生虫館	特別展「寄生虫の超能力」	4月27日～9月23日
サンシャイン水族館	帰ってきた♡性いっぱい展	9月6日～11月4日
神奈川県立生命の星・地球博物館	30周年記念特別展「生命の星・地球博物館の30年 -120万点から厳選した資料で振り返る-」	7月13日～11月4日
新江ノ島水族館	“えのすい”のくらげ展	7月12日～11月4日
平塚市博物館	標本で!植物観察	7月20日～9月4日
	砂丘の縄文遺跡	8月22日～9月29日
	神奈川プラネタリウム大集合	9月28日～11月17日

※施設の一部を閉鎖している館園や、入館に際し予約を必要とする館園がございます。各館園のホームページをご確認ください。

開催館	展覧会名	開催期間
富山市科学博物館	第45回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2023 - 2024」	9月11日～10月9日
	第83回「富山県科学展覧会」	10月17日～10月21日
	企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」	10月26日～12月8日
長野市立博物館分館 信州新町化石博物館	信州が海になったころ【前期】 -南信州と西日本の海-	7月6日～11月10日
sakumo 佐久市子ども未来館	サクモの恐竜展ディノマトベで楽しもう	7月20日～9月8日
岐阜県博物館	特別展「ポケモン化石博物館」	7月19日～10月27日
ふじのくに地球環境史 ミュージアム	山とともに生きる -南アルプスの麓、井川地区の今-	7月20日～11月10日
	第7回ふじミュージアム写真展	10月12日～2025年1月13日
豊橋市自然史博物館	第38回特別企画展「キセキの結晶☆鉱物」	7月12日～9月23日
名古屋市科学館	特別展「毒」	7月13日～9月23日
滋賀県立琵琶湖博物館	湖底探検Ⅱ-水中の草原を追う-	7月20日～11月24日
大阪市立科学館	企画展「日本の科学館は大阪から」	8月1日～11月24日
高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川)	企画展「あくあびあと私～30年間の足あと～」プレ展示	9月7日～9月29日
伊丹市昆虫館	特別展「カブクワこれくしょん 2024」	7月20日～11月25日
明石市立天文科学館	プラネタリウム博覧会	7月20日～9月8日
鳥取県立博物館	企画展「ネコ」～にゃんと!クールなハンターたち～	10月5日～11月10日
島根県立三瓶自然館	令和6年度夏期企画展「THE 蜂」	7月13日～9月29日
倉敷市立自然史博物館	第33回特別展「ほくらのまちの7つのみどり」	7月20日～10月14日
	特別陳列「畠田和一貝類コレクション展 10 畠田和一が採集していた岡山県の絶滅危惧種6」	4月13日～9月23日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	五感をとぎすませ あそぼう! 感覚ワールド	7月20日～11月4日
面河山岳博物館	真・カブトムシ	7月20日～11月24日
愛媛県総合科学博物館	企画展「未来の原画展」	10月5日～11月27日
	特別展「ドキドキ探検ミュージアム スリラー博士の恐怖の実験室」	7月13日～9月23日
佐川地質館	特別展「洞窟に落ちた動物たち」	5月18日～2025年5月5日
北九州市立自然史・歴史博物館	企画展「戸畑百年の軌跡」	6月22日～9月16日
	夏の特別展「ゾクゾク発見! 両生類・は虫類展」	7月13日～9月16日
	企画展「貫の歴史と文化財-真光寺大般若経とその周辺-	9月21日～11月24日
	秋の特別展「お菓子のむかしばなし展」	10月12日～12月8日
佐賀県立宇宙科学館	ソラフェスタ	9月7日～9月23日
御船町恐竜博物館	令和6年度御船町恐竜博物館夏期特別展「恐竜の脳力～恐竜の生態を脳科学で解き明かす～」	7月20日～9月29日
宮崎県総合博物館	毒モンスター水族館 ～海のキケンな生きものたち～	7月13日～9月8日
	化石タイムカプセル -コンクリーションの謎をとく-	10月12日～11月24日

※次号(11月号)に掲載の11月12月の特別展情報は9月20日(金)までにお寄せください。

リニューアル情報

※次号(11月号)に掲載のリニューアル情報は9月20日(金)までにお寄せください。

旭川市科学館

[更新箇所] 常設展示に「10TOWN」を設置

[更新内容] 「10TOWN (イチマルタウン)」は現在、最新の技術や発明が10年後にどのように自分たちの生活に活用されていくのかが体感できる展示です。展示は、10年後の旭川をモデルにした街に住む人々の暮らしや仕事ができる「10SCOPE (イチマルスコープ)」や最新の技術(生成AI、ドローンの自動運行、分身ロボットによるコミュニケーション)が体験できる「10LABO (イチマルラボ)」、未来の自分たちへの伝言板「10MESSAGE (イチマルメッセージ)」の3つのゾーンからなる展示で、これらの体験から皆さんに近未来の社会を感じて夢を膨らませていただけることを期待しています。



[更新面積] 約25平方メートル

[公開日] 2024年4月1日

[準備期間] 2ヶ月(前展示を閉鎖してからオープンまでの期間)

[担当業者] 株式会社乃村工藝社

[総工費] 29,988,200円

つくばエキスポセンター

[更新箇所] 1階展示場「元素周期表」

[更新内容] 科学の基礎である「元素周期表」を展示しています。「ものはすべて元素からできている」ので元素がどのようなものにあるのかを紹介しました。子どもが興味を持って近づいて見てもらえるように、118の元素にボタンと窓をつけました。ボタンには原子番号があり、単体の状態で3色に色分けされ点灯しています。ボタンを押すと窓の中の実例が見える仕掛けとなっていて、その元素でできている実例にはできるだけ身近なものを選びました。(放射性同位体のものは除きます)おとなは中・高校生で学んだことを思い出しながら、子どもはこれから知る科学の基礎となる表として、楽しんで見てもらいたいです。



[公開日] 2024年4月11日

[担当業者] 株式会社 日展

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本/化石・鉱物・岩石
古生物/レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 東京サイエンス TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail: info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

KONICA MINOLTA Giving Shape to Ideas

DYNAVISION-LED
LED DOME SYSTEM

革新的なテクノロジーを結集した
新しいLED映像システムで
リアルな臨場感と美しい映像体験を



コニカミノルタプラネタリウム 製品 検索 画像: コニカミノルタプラネタリウム (満天) NAGOYA

スリーエム仙台市科学館

[更新箇所] 3階4階展示室

[更新内容] 平成2年の開館から30年余りが経過し、展示物や展示手法の老朽化、また部分的な改修を重ねたことで各エリアの展示テーマが伝わりにくいなどの課題に対応するとともに、科学技術の進歩などに伴う科学館への期待に応えながら、科学を通して人々が集い、交流し、活動する場としていくため、開館以来の全面展示リニューアルを実施する。

今回のリニューアルにおいても、参加体験型の展示を通して、科学の原理・法則を見て・触れて・試し、創造力を呼び起こすことのできる科学館という基本理念は継続し、学校教育との積極的な連携と市民の多様なニーズに応える高度な機能を備えた総合的かつ開かれた科学館を目指している。

4階展示は2つのエリアからなり、「宮城・仙台の自然」エリアは、郷土の自然環境への理解を通し、郷土への愛着や誇りを醸成する場になる。また、「科学の探究」エリアでは、科学の原理・法則を体験的に深く学べる展示構成となっている。

3階展示は、科学を人々の生活や社会との関わりという視点から発信することと、自然災害の起こるメカニズムや震災から得られた教訓などを科学的な視点から発信することで本市ならではの防災教育に貢献する場となることを大切にしている。



[更新面積] 約4,400㎡

(4階展示室 約1,800㎡・3階展示室 約1,800㎡・3階エントランス 約800㎡)

[公開日] 4階展示室 令和6年4月26日

3階展示室・エントランス

令和7年5月上旬予定

[準備期間] 4階展示室

令和5年10月2日から令和6年4月24日

3階展示室・エントランス

令和6年10月上旬から令和7年4月下旬予定

[担当業者] 株式会社トータルメディア開発研究所

[総工費] 約19億円

Panasonic
CONNECT

空間創造によって
人々に「喜びと感動」
を届ける

株式会社 乃村工藝社

東京都港区台場2丁目3番4号 TEL: 03-5962-1171 (代表)

工夫がたっぷりの収蔵庫



越知町立横倉山自然の森博物館公式HP
<https://www.yokogurayama-museum.jp/>

当館では、町のシンボルである横倉山について、幅広く取り扱っています。学芸員は多岐にわたる資料を後世に伝えるために日々工夫を凝らしています。

写真は、温度や湿度の変化に弱い標本を保管している収蔵庫です。よく見ると、標本が袋に包まれています。この中に乾燥剤や防虫剤を入れて、いわば小さな収蔵庫をたくさん作ったような状態にしています。ここには書ききれないそのほかの工夫は、ぜひ当館へ足を運んでご確認ください。



次回執筆者は、高知みらい科学館 笠貫 ゆりあさんです。

令和6年度 東レ理科教育賞の募集

【東レ理科教育賞】

◆対象：東レ理科教育賞は、理科教育を人間形成の一環として位置づけた上で、中学校・高等学校レベルでの理科教育における新しい発想と工夫考案にもとづいた教育事例を対象としています。論説や提案だけではなく、教育の現場で実績のあるものを期待しています。生徒の科学に対する興味を深めるために、例えば次のような事項が考えられます。

- (1) 実験・観察、演示などの教材・教具の開発とその実践例。
- (2) 効果的な実験法、器材の活用法、自発的学習をうながす工夫など。
- (3) よりよい理科教育のための指導展開。

◆応募資格：中学校・高等学校の理科教育を担当、指導、または研究する方。

◆締切日：令和6年9月30日(月) 必着

詳細は公益財団法人東レ科学振興会のホームページ(<https://www.toray-sf.or.jp/awards/education/>)をご確認ください。



全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

石浜佐栄子(神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員)
南部 靖幸(熊本博物館学芸員)
西田 雅美(公益財団法人日本科学技術振興財団
所沢航空発祥記念館主査)
平田慎一郎(きしわだ自然資料館学芸員(特命参事))
弘田 澄人(川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館)
天文担当係長)
望月 貴史(岩手県立博物館専門学芸員)
田邊 玲奈(国立科学博物館展示開発・博物館連携グループ長)

全科協事務局

国立科学博物館
科学系博物館イノベーションセンター
(担当:中山・河田・清水)
TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899
info@jcsm.jp
発行日 2024年9月1日
発行 全国科学博物館協議会©
〒110-8718
台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印刷 株式会社セイコー社